

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	南 博信
-----------	------

## 1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	b
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
<p>補助金が途切れ、COVID-19で活動が制限される中、がん医療人の養成を継続しようという強い意思が感じられる。広範な地域をカバーするプランであるが、e-learningや遠隔コミュニケーションのシステムを利用して活動している。特に合同の症例カンファレンスおよび学生による研究成果発表などは教育効果が高い活動であったと思われる。</p> <p>がんプロとしての補助金がないにもかかわらず、24の大学院コースに42名を受け入れた。しかし10の大学が参加しているプロジェクトであるにもかかわらず主幹校が6割以上の学生を受け入れているなど、大きな大学間差があり、拡大しているようにも感じる。bと自己評価しているが実際はa相当と判断しても良い大学がある一方、c相当あるいはそれ以下と思われる大学もある。今年度は補助金がなかったため仕方ないと思われるが、来年度以降は全ての参加大学でプロジェクトの主旨にそった人材が養成できる教育体制を整えることを期待したい。</p> <p>一方で、開業医の子女が多く学生の確保が困難であった大学が博士課程の入学者を確保できた施設もあり、各大学の努力を期待したい。</p> <p>がんゲノム医療に携わる医療人の育成は活発に行われているが、がんゲノム医療中核拠点病院あるいは拠点病院の活動と重複する活動も多く、本プロジェクトとしての評価は難しい。人材養成という視点で本プロジェクトの今後の成果に期待したい。エキスパートパネルでは臓器横断的にがん薬物療法を体系的に理解しているがん薬物療法専門医が必須であるが、その取得が少なかったのは残念である。</p> <p>全体として、補助金がないにもかかわらず活発に様々な活動をしており成果も上がっているものと評価できる。今後の大学間差解消の努力を期待したい。</p>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	がんプロとしての補助金がないにもかかわらず、6の大学院コースに27名の学生を受け入れ、主幹校として中核的活動をしている。 コースによっては留学生を受け入れようとしているが、大学の教育活動としては高く評価できるが、「九州の」人材を養成するという観点からは本プロジェクトの主旨からずれるのではないか？
福岡大学	開業医の子女が多く学生の確保が困難であり、博士課程の入学は1名のみであったが、インテンシブコースに7名を受け入れたことは評価できる。
久留米大学	実績に実験のことを記載しているが、プロジェクトの腫瘍目的であるがん医療人が養成できたか評価できない。
佐賀大学	インテンシブコースも含め学生の確保がなく、実臨床の活動について報告されているが、本プロジェクトとしての具体的な実績が不明である。
長崎大学	入学がなかった大学院コースもあったが、がんプロとしての補助金がないにもかかわらず6名の学生を確保したことは評価できる。今年度の離島・僻地医療の実習の「実績を踏まえた成果」として、どの程度の医療人が離島・僻地で活躍しているかが重要な指標となろう。
熊本大学	学生が確保できず、また資格についても、がん薬物療法専門医や放射線治療専門医を輩出できていない。論文業績はあがっているようだが、本プロジェクトの主旨にあうがん医療人の養成にも尽力してほしい。
大分大学	がんプロとしての補助金がないにもかかわらず、7名の医師を大学院生として受け入れたことは特筆に値する。
宮崎大学	目標達成の実績と実績を踏まえた成果がほぼ同じ内容となっており、学生の受け入れもなく評価が困難であるが、講演を開催したことは評価できる。インテンシブコースからがん治療を目指した医師がいたことも実績の一つと捉えることができるが、大学院入学につなげてほしい。
鹿児島大学	学生の受け入れ数が「今年度の実績」では7名の大学院生を確保したとあるが、「数値実績一覧」でな0になっており異なっている。南部エリアの主幹校であるが、がんゲノムパネル検査エキスパートパネル、化学療法カンファレンス、キャンサーボードなどは病院としての活動であり、本プロジェクト実績が見えにくい
琉球大学	医師の学生が確保できなかったのが仕方ないが、実績は過去の入学生に対する講演会1回のみとなっている。看護師の学生は確保でき教育できているようである。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	眞嶋 朋子
-----------	-------

## 1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	A
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	A
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	A
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	B

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
<p>評価できる点</p> <p>がんプロの補助金がなく、Covid 19<sup>th</sup>の影響下という厳しい状況の中でも、大学の基盤経費を用い、がんプロの目標を継続的に計画、実施されている。九州大学のリーダーシップのもと、目標設定、新たな取り組み、今後の計画が加えられており、努力がうかがえる。</p> <p>特に評価できる点は以下の内容である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・e-learning 支援室を中心に新たに21講義の収録と19の講義の公開をされていること</li> <li>・九州がんプロ研修会を継続的に実施されている。</li> <li>・がんプロ履修生による教育研究成果発表会を行っていること</li> <li>・在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行っていること</li> <li>・市民公開講座を実施されていること</li> </ul> <p>また、修了生の声をホームページに掲載し、履修生リクルートに活用する試みや、九州全域の国立大学を中心としたネットワークが継続的に築かれ、発展されていることが評価できる。</p> <p>新たな試みとして、長崎大学のがん患者の就労支援・両立支援など、宮崎大学の高齢がん患者の意思決定支援等の研究の普及、鹿児島大学のインテンシブ がん専門薬剤師養成コースにおけるACP に関する知識の普及のための研修会の企画等 患者支援の要素を含む研修が実施されている点が多職種連携の質を高めるうえで評価できる。</p> <p>今後に向けて改善すべき点</p> <p>一部の大学においては、受け入れができなかった教育コースがあり、大学院生のリクルート方法、広報活動については引き続き検討していく必要がある。</p> <p>小児AYA 世代のがん患者支援、遺伝カウンセリングの充実、医療事故予防の検討、包括的な内容を含むインテンシブコースでの教育、がん医療にかかわる専門看護師教育、多職種連携教育等、各大学で特徴的に実施されている内容を共有し、複数の大学で教育を提供し、効果的、効率的な教育を継続して行くことが必要である。また、附属病院、地域の関係施設・機関における専門職連携実践の発展を期待する。</p>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	「ゲノム基盤臨床腫瘍学コース」「小児がん・希少がん臨床腫瘍学コース」「先端医用量子線技術科学コース」「がん専門細胞検査士コース修士課程」「がん研究薬剤師コース博士課程」の新規受入、九州大学病院がんセミナー、九州大学・大阪大学合同カンファレンスなど精力的に研修会等を開催しており、特に、新たに「小児緩和ケアチーム勉強会・特別講演」なども開催されており、新たな課題にも視野を広げている。
福岡大学	患者・家族・医療者を対象とした地域向けに骨髄腫セミナー を対面&web を通じて開催されている。また多職種が参加して「AYAサポートチーム」の「妊孕性温存」研修会は新しい取り組みとして、開催されており、良い取り組みであると考えます。
久留米大学	抗がん剤感受性低下、耐性化に関与する遺伝子の解明について研究の成果が国際誌においても掲載されるようになってきている。がん看護専門看護師教育課程の修了生を中心に地域に呼びかけ、高齢者のがんや、AYA世代のがん患者の支援につながる研修を行うことができている。遺伝カウンセリングにつながる診療・教育体制が進められており、今後の発展が期待される。
佐賀大学	佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館、嬉野医療センター、唐津赤十字病院より医師、看護師、薬剤師とMSWIにより、県全体のがん医療の課題を整理し、解決するための研修として挙げられている連携の課題を示されたことは重要と考える。がん診断時、緩和ケアに至るまでの患者支援を行う上で重要な課題である、続けて、課題整理を行うとともに、研修を充実させていただきたい。
長崎大学	これまで行われてきた大学院生の在宅医療実習及び離島・僻地実習の報告書を通じて広報されており、地域の文化を反映した医療を発展させるために重要な成果を示されている。また、がん患者の就労支援・両立支援をテーマに県民への情報発信が行われており、患者支援に必要な内容が継続的に発信されている。
熊本大学	コースを継続させ、専門医資格の取得を促進していること、国内国際学会等にコース制が研究成果を発信しており、臨床教育と研究の両立促進が図られている。多職種連携の取り組みや情報発信等について今後の取り組みが期待される。
大分大学	継続して3つのコースの大学院生の専門資格取得の促進、教育セミナー等を実施されている。着実に専門医や専門看護師の資格を取得の支援ができており、今後の活躍が期待される。難治性のがん性疼痛への治療としての神経ブロックに関連した痛みのアセスメントの視点など重要な専門的な視点を含む教育が提供されている。
宮崎大学	地域がん総合治療医育成コース（インテンシブ）を通じ、総論、各論を通じた講演会が精力的に提供されており、通常のインテンシブコースの内容を超えて包括的な内容であり、参加者も多く高い評価となっている。また、令和5年より38単位のがん看護専門看護師コースでの大学院生の受け入れに向けて着実に準備が進んでいることがうかがえる。
鹿児島大学	継続して2つのコースの学生を受け入れ、教育を行っている。また、包括がん医療コースにおいては、遺伝カウンセリングが行われている。がん遺伝子パネル検査では、患者の社会的背景を考慮したカンファレンスが行われ、ライフステージを通じた自職種、多職種間での総合的な患者家族支援が検討されており、評価できる。外部のバイオインフォマティクス解析機関とも連携した定期的に知識ベース情報更新についてはリスク予防の観点からも貴重な内容を報告されている。放射線看護専門コースについては引き続き大学院生のリクルートが期待される。
琉球大学	3つのコースにおいて既に受け入れている大学院生等に対する教育を実施している。またインテンシブコースについては引き続き、受け入れを行い緩和ケアエキスパートナースの称号付与を行うなど独自の教育システムを整えている。次期がんプロ実施のために、今後は医学科等との連携が期待される。

## 「新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン」外部評価委員用 評価シート

送付した評価用資料および九州がんプロホームページ（<http://www.k-ganpro.com/>）等をご覧になった上で、以下の評価シートにご記入ください。このシートの内容は、評価委員の氏名を明らかにした形で、評価用資料とともにホームページ等にて公表する予定であることを予めご了承ください。

外部評価委員 氏名	石澤 啓介
-----------	-------

## 1. 今年度における九州がんプロの取り組み評価

下記3つの欄に、a（優れている）～e（劣っている）の選択肢を記入いただき、つづけて「コメント欄」に評価の具体的な内容をご記入ください。

[選択肢] a:優れている / b:やや優れている / c:普通 / d:やや劣っている e:劣っている	
総合評価	b
達成目標1：九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。	b
達成目標2：ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。	b
達成目標3：ゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。	b

コメント欄（上記評価の理由、評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）
<p>九州がんプロでは九州内の10大学が連携して、ゲノム医療、小児がん・希少がん、ライフステージに応じたがん対策、におけるがん専門医療人の養成に取り組んでいる。『多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン』事業（平成29年度～令和3年度）は終了したが、今年度も継続して各大学の強みを活かした活動が展開されている。</p> <p>本事業は、広大な九州における大学間連携を効率的に実施するために、北部・西部・南部の3エリアで九州大学、長崎大学、鹿児島大学がそれぞれエリア拠点となり、がん専門医療人の養成を進めている。特に、在宅医療実習または離島・僻地実習は継続して実施されており、多職種人材養成に取り組んでいることは評価できる。</p> <p>今年度は、10大学において、計35コース（大学院24コース、インテンシブ11コース）が設置され、計63名（大学院コース42名、インテンシブコース21名）の新規受入があった。九州大学に設置の「eラーニング支援室」を中心として「全国eラーニングクラウド」へ提供する講義の収録・編集・公開も進んでいる。各大学においては本システムを活用して、多様な新ニーズに対応できるがん専門医療人の人材確保と養成が望まれる。</p> <p>本プロジェクトでは各大学において、がん診療連携拠点病院・小児がん拠点病院等の他施設との連携も活発化している。今後は医療系学部以外との連携を推進し、医工連携等を活用したがん診療の強化や人材育成が望まれる。また、今後も九州各地で一般市民を対象としたセミナーや市民公開講座などを継続的に開催することで、最新のがん治療を広く情報発信していくことも期待される。</p>

## 2. 各大学の取り組みに対する評価

今後の改善の参考とするため、各大学へ個別にコメントをご記入ください。

コメント欄（評価できる点、今後に向けて改善すべき点など）	
九州大学	本事業ならびにエリア拠点として九州がんプロの活動の取り纏めを担当している。オンラインのメリットを活かし、種々の研修会・カンファレンス・発表会等を継続的に開催し、がん専門医療人養成に努めていることは評価できる。今後、がんプロ事業を更に積極的に発信して履修者の増員を目指すとともに、地域や社会に対して情報発信されることを期待する。
福岡大学	ライフステージに応じたがん専門医療人育成コースの人材を1名確保し、AYA世代のサポートを病院全体で実施する活動を開始した。さらなる人材確保に努めて頂きたい。
久留米大学	本プログラム履修大学院生の研究成果が英文誌に掲載され、学位を取得されている。今後も、がん診療に携わる若手医師大学院生の確保に努めて頂きたい。
佐賀大学	がん専門医療人養成において「新ニーズに対応するがん専門医療人養成インテンシブコース」等の情報を広く周知理解を深めてもらうことで、人材確保に努めて頂きたい。
長崎大学	ライフステージに応じたがん専門医療人の育成のため、遺伝子パネル検査症例のエキスパートパネルに大学院生が参加している。また大学院生に対し、在宅医療実習または離島・僻地実習を継続して行うなど、エリア拠点として積極的に事業に貢献していることは評価できる。
熊本大学	「研修医・大学院一体型がん専門博士養成コース」の在籍者が、多くの学会で研究成果を発表している。今後は医師に加えて、ライフステージに応じたがん対策を推進する多職種の人材養成にも期待する。
大分大学	「ゲノム医療研究者養成コース」「ライフステージに応じたチーム医療人養成コース」の在籍者が、研究成果を多くの英文誌に発表している。今後、ゲノム医療、がん薬物療法専門医、がん専門看護師の育成も推進して頂きたい。
宮崎大学	医師、薬剤師、看護師、放射線技師など多職種の医療人に対するセミナーを開催し、がん専門医療人養成に努めている。今後はがん看護専門看護師養成コースを選択する人材の確保と増加が期待される。
鹿児島大学	がんゲノム医療に関する教育を中心に人材育成に取り組んでおり、エリア拠点として事業の推進に貢献している。今後、がんゲノム医療・遺伝カウンセリングに必須である「臨床遺伝専門医」の養成が望まれる。
琉球大学	緩和ケアエキスパートナース養成コース（インテンシブコース）は、目標を上回る6名を受け入れており評価できる。今後は、がん薬物療法専門医コースの情報を広く周知して、大学院生の人材確保にも努めて頂きたい。